

萌丘東幼稚園
萌丘東保育園 ほいくだより

2025



ひがしっ子 12月



発表会後の代休に際し、保護者の皆さまにはご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。子どもたちが大きな行事を終え、安心して次の生活へとつながっていけるのは、日頃から園の取り組みを支えてくださるご家庭の存在があってこそだと感じています。

2～5歳児が参加した発表会では、ただ「できた」「上手だった」という姿だけでなく、自分自身も楽しみながら、友だちのことを意識して行動する姿が印象的でした。気持ちを合わせたり、声を掛け合ったりしながら一つの表現をつくり上げる中で、「自分の思い」と「周囲の思い」の両方を感じ取り、場を共有しようとする力が育ってきていることが伝わってきました。これはまさに、“共に生きる”力が形として表れてきた姿だと感じています。

一方、発表会に参加していない0～1歳児の子どもたちは、安心できる大人のまなざしの中で、身近な人や物への興味を広げながら過ごしています。保育者の動きを真似たり、友だちの存在を感じながら同じ空間で遊んだり、「一緒にいる心地よさ」を日々の生活の中で積み重ねています。この経験が、人と気持ちを通わせる力の土台となっていくます。

今、0～1歳児が感じている安心感や信頼は、やがて2～5歳児となり、発表会のような場で「自分も楽しい、周りの人も楽しい」をつくり出す姿へとつながっていきます。年齢や姿は違っても、園の中では一人ひとりの育ちが連続し、重なり合っています。これからも、互いの存在を感じ合いながら、自分らしく、そして周囲と共に育っていけるよう、丁寧に積み重ねていきたいと思ひます。





パンのかたち 三九二麻佑

せっかちな私とは対照的に、娘はとてもマイペース。歩くのも食べるのも朝の準備もゆっくり、のんびりです。急いでいると、つい「早く！」と急かしてしまいますが、娘はそんなことお構いなしに「ママ見て！！」といろいろな発見をします。

帰り道の夕焼けが昨日とは違うこと、どんぐりにたくさんの色や形があること、ひと口かじったパンが車のようにみえること、飛行機が自分のうしろをずっとついてくること…。大人が普段気にも留めないような日常も、子どもの視点になるとカラフルで、一つひとつがピカピカ光る宝石のように見えてきます。

せわしない毎日の中、つつい「早く！」と言ってしまうがちですが、たまに子どもと同じ目線で世界を見てみると、思いがけない発見に出会えるかもしれませんね。





発表会までの日々

発表会での子どもたちの姿は、一人ひとりが本当に輝いていました。真剣な表情や少し緊張した顔、やり切った後の笑顔からは、さまざまな気持ちを抱えながら舞台に立っていたことが伝わってきます。そこには、「うまくできるか不安だったけれど、先生や友だちに支えられながら挑戦した経験」や、「自分の役割を果たそうと頑張った時間」など、心が大きく動く体験が詰まっていたと思います。楽しいだけでは言い表せない瞬間も含めて、一つひとつが子どもたちの力になっています。この発表会での経験は、これから先の成長の中でも、きっと子どもたちを支えてくれる大切な思い出になることでしょう。

